

尚子さん版『プロジェクトX』に心が動いた

大学院生・スクールソーシャルワーカー

金子 恵妙

いきなりですが、尚さんは NHK のドキュメンタリー番組『プロジェクトX』をご存じですか。前シリーズは 2005 年で終わりましたが、今春 18 年ぶりの『新プロジェクトX』として復活しました。初回はスカイツリー建設がテーマで、技術者と職人が対話をあきらめず、意見の相違や衝突をのりこえて、634mのタワー完成に漕ぎつけた人間ドラマが描かれていました。意見のぶつかりあい、そこからやがて生まれる連帯感と達成感。最近使っていなかった心のどこかが揺さぶられたのか、涙があふれました。

なぜこんな話をしたのかといえは、今回の尚さんの話には、「プロジェクトX」3本いや、5本分くらいに匹敵するようなドラマだったからです。スパイクタイヤの規制の裏にあった攻防、佐世保市での子育て支援拠点立ち上げへの熱意、難病対策の見直しに向けた折衝……。登場する人物や機関、舞台は多様ですが、そこにはいつもコミュニケーションを重視し、議論も厭わない尚さんの情熱がありました。そして、この社会を少しでも生きやすい場所にしようとそれぞれの持ち場で力を尽くす人々の姿も。そんな人たちが支えてくれているこの社会を、私たちはまだまだあきらめてはいけないと思います。

そして、「元スーパー医療官僚」と称されるほどの活躍をされてきた尚さんなのに、「育ててもらった」とか「勉強させてもらった」と謙虚な言葉を何度も口にされていたのにも少し驚きました。

相手が国のリーダーであっても、自治体職員や企業の方であっても、病気に苦しむ当事者の方であっても、いつも同じように真摯に相手の方の話に耳を傾けてこられたのではないのでしょうか。だからこそ、社会や地域に求められているものを敏感に察知されてこられたのだと思います。

私は今、子ども支援や在日外国人支援に関わっています。尚さんの話を聞いて、人生一度くらいは私なりの「プロジェクトX」を成し遂げてみたいと思いました。「やるときには思い切ってやるべき」との尚さんの言葉をお守りに、近いうちにギアをぐっと上げ、社会にやさしい風を吹かせたいと思います。その際はぜひご助言いただきたいと思います。

最後になりますが、貴重なお話を本当にありがとうございました。

来年度には子どもをテーマにした講座も考えていらっしゃるとのこと。もう待ちきれません。尚さんのお話を伺える場所には、これからも出張っていきますので、引き続きよろしく願いいたします。